「いよいよ到来～人生１００年時代」に想う!!

滋賀県レイカディア大学
同窓会会長 堀江 勇夫

人生１００年時代と言われます。１００歳以上の人口が今年９万２０００人を超えました、一年間に四万数千人が１００歳を迎えられ、四万二・三千人が１００歳以上の天寿を全うされています。その差が純増となり、数年以内に１０万人に届く勢いです。内訳はなんと女性が９０％、男性がわずかに１０％と公表されています。要因は様々考えられますが、新しい命を宿し育み生み出すという、生理学的に崇高な重たい役割を担っている女性の、生来的な生命力の強さの現れでしょうか・・・それとも!?

ところで高齢者の概念は、科学的根拠に基づく年齢規定はありませんが、観念的には６５歳以上７４歳以下を前期高齢者、７５歳以上が後期高齢者と定義されています。精神的にも肉体的にも、１０歳以上の若返り現象が見られる現実に照らして、現行定義は果して適正なのでしょうか？７５歳を超えても尚矍鑠として、生き生きと社会活動に参画している人がほとんどです。

既存の定義の見直しの必要性が各所で議論されつつあります。

このような高齢化社会では、レイカディア大学のようなシニアが集う高齢者学校など、学びの場を求める社会現象が、生れてくると言われています。

その三大理由が、以下のとおりとされています。

①老後に豊かな人生を得るため　　仲間と　「ともに学ばん」
②自らの健康の維持と健康寿命の増進を得るため　　仲間と　「ともに遊ばん」
③学友と親睦を図り新たな友人を得るため　　仲間と　「ともに生きなん」

第４５期の入学応募者が大きく増加し、すべての学科において入学許可者の定員が満たされたのは、まさにその現象の一つであると思います。言うに及ばずその前に、大学当局や関係機関・諸団体の有機的な連携により、精力的な募集活動が展開されたことを、軽んじているわけではありません。

さて**「人生１００年時代」**の、滋賀県レイカディア大学同窓会活動の、醍醐味としての**「老い楽」**を存分に満喫しながら、地域社会の担い手として期待されるに足る、十分な実りあるシニアライフを過せるように、**「人生に余生などない・・・」**という**「至言の道」**を歩んで参りましょう。

私が卒業した第３０期地域文化学科のコンセプトは**「われわれの前に道はない。われわれの後に道ができる。」**としていましたが、この道こそが前述の**「至言の道」**と信じて、１００歳を目指して今の心境を詠めば　**「六十路より八十路に懸けてえにしあり　この行くすえは百歳（ももとせ）までも」**

精神年齢を実年齢に７０％を掛ける**「人生七掛け論」**がネット上に現れ始める中、来る２０３０年９月２２日に滋賀県レイカディア大学同窓会は、**「創立５０周年」**を迎えます。

これからの同窓会活動は、来たるべく次世代の生れ変わった、同窓会のあり様に思いを馳せて、同窓会員の皆さんの計り知れないポテンシャルの発揮に期待を寄せ、同窓会の持続可能な発展を願わずにはいられません。

最後になりますが、私は２０１４年３月に第９代同窓会長に就任させていただき、爾来５期１０年を経ることとなり、２０２４年３月卒業させていただきます。

今日までの暖かいご支援とご協力に心より感謝申し上げますとともに、会長として最後の「滋賀県レイカディア大学同窓会機関誌『會報（つながり）第４０号』」に、メッセージを寄せる機会を得た喜びに浸りながら、当該同窓会の益々の発展と役員ならびに会員の皆様の、ご健康とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。